

### 野川河床整備に関する川づくり説明会の議事要旨

東京都は、野川の治水対策として進める河川整備に関し、環境面等も考慮した世田谷区区間の整備概要について、川づくり説明会を開催し地域の皆様に説明させていただきました。

説明会当日の議事要旨を作成いたしましたので、ご覧ください。なお、本議事要旨は、説明会時に頂いた意見や質問等を取りまとめたものであり、文言等の要約や説明を付加し作成しております。

#### 1 開催概要

日時	平成 29 年 9 月 27 日（水） 18 時 00 分～20 時 00 分
場所	一般財団法人世田谷トラストまちづくりビジターセンター
参加人数	61 名

#### 2 主なご質問・ご意見と都の回答（要旨）

ご質問・ご意見	都の回答
世田谷区区間より上流はどのような整備内容になるのか。	河床整備は下流側から順次整備を進めており、引続き上流も整備を進めていきます。当該区間と同様の整備内容となるかは未定ですが、河川環境を踏まえた整備内容になると考えられます。
当該区間は 40 年間、一度も溢水被害はない、河道整備が必要なのか。	河道整備は上流部の洪水も安全に流下可能にする必要があります。また、河川が 1 時間 50mm 規模の降雨を安全に流下できる能力が不足しているため、下水道から河川への放流を抑制している状態です。野川からの溢水被害は生じていませんが、内水被害は数多く発生しています。今後は河川の流下能力を向上させ、下水道の放流抑制を解除し、流域の安全度を上げていく必要があります。
治水対策を最優先でやってほしい。計画期間が 30 年と長い、その根拠はあるのか。	65 年対策として現在、既存調節池の規模拡大を進めています。野川流域全体としては新たにいくつかの調節池を整備していく必要があります。その用地の確保には時間がかかり、土地所有者の協力も必要となってくるため、計画期間は概ね 30 年と位置付けています。
オオシマザクラについての 3 案は決定事項なのか。また対岸の左岸側はどのような整備をするのか。	平成 29 年度は 3 案を基本とし、各案のメリット、デメリットを整理しながら実施可能な整備内容を検討いたします。オオシマザクラ自体の健全性も好ましくないことが判明しており、水位上昇時の倒木に伴う洪水の危険性も考慮しながら検討いたします。左岸側については、鳥類の貴重な生息空間であることが確認されているため、基本的には改変を伴わない整備を予定しています。

ご意見・ご質問	都の回答
<p>今まで1時間50mm規模の降雨にも耐えてきているのに、自然を破壊してまで工事を行う必要があるのか。</p>	<p>局地的な1時間50mm降雨は多くありますが、河川計画は流域全体に1時間50mm降雨強度を想定し、全域で安全にするためのものです。近年の降雨状況を見ても最悪の事態を想定する必要があり、皆様の生命や財産を守るためには整備が必要であります。また、整備の手法についても、環境と治水の両立を目指して計画しております。</p>
<p>“1時間50mm降雨に対応する護岸は整備済み”と“河道の拡大により、1時間50mm降雨に対応する流下能力の確保」の違いがわからない。</p>	<p>1時間50mm降雨に対応する護岸整備済みとは、流下能力確保のための河床掘削に対応した護岸を先行して整備しているということです。1時間50mm降雨に対応する流下能力の確保とは、流下能力確保するために、河道拡大する河床の掘削のことです。</p>
<p>1時間限り50mmの降雨を対象としているのか。1時間50mmの降雨が数時間続いたときを想定しているのか。</p>	<p>河川計画の降雨は、実際の洪水現象を基に徐々に降雨が強くなり徐々に弱くなっていく中で、その中間の最大降雨が1時間50mmということ想定しています。その最大降雨が数時間続くことは想定しておりません。</p>
<p>右岸側は水際を歩けるようになるのか。</p>	<p>整備区間の緩傾斜部については、護岸の前面にふとん籠を設置し覆土するので、歩行が出来るスペースは確保されますが、あえて歩道的な整備は計画していません。</p>
<p>年に2回しか草を刈っていないが、人の歩行は考えずに自然保護の観点からそのような頻度としているのか。</p>	<p>河川の草刈りは原則的に堤防等の安全性を確認するため、年2回実施する事と定められております。当地区の草刈り等維持管理は世田谷区が行っているため、時期や範囲についても世田谷区が決めております。</p>
<p>水際を連続で歩けるようにするのは反対である。野川は人間のためだけのものではなく、生き物たちのものでもある。下流区間の工事による環境評価をした上で検証を行い、工事をしてほしい。そのために工事を1年延期させ、その1年で環境アセスメントを行ってほしい。</p>	<p>下流区間の環境調査（魚類、底生動物、植物等）は行っております。また、当該区間の良好な自然環境を早期に復元・創出するため、従来の工事では石積み護岸で行っていた整備を、カゴマットを設置した上に現地の土を覆土する整備に変え、元からあった植物等の復元を促す等の工夫も実施します。下流側の調査結果や検証結果を参考に更に実施可能な対策を検討しており、引続きモニタリング調査も進めていく予定です。</p>
<p>調査等を行っているのであれば報告してほしい。</p>	<p>調査結果等については、平成30年3月の中間報告や平成30年7月の説明会のタイミング等で報告できればと考えております。</p>
<p>河道内にある2か所のコンクリートブロックは撤去するのか。</p>	<p>今回整備予定区間にある2か所のコンクリート構造物は、整備に合わせて撤去する予定です。</p>
<p>工事は平成29年12月から平成31年3月まで行うのか。</p>	<p>工事については連続して行うのではなく、出水期を除く濁水期の時期に施工可能な区間毎を行う予定です。</p>

ご意見・ご質問	都の回答
工事に伴う搬入路は、昨年度と同様に商店街を通るルートとなるのか。	検討の結果、平成 29 年度以降も同様のルートで計画しています。昨年度に比べ工事規模も少なくなりますが、必要な安全措置を施す等、配慮して工事を行ってまいります。
平成 30 年度の工事で平成 29 年度の工事と同じ河川内の搬入ルートとなると、河川内の自然が戻った箇所を壊すことになるのではないか。上流側からの搬入ルートに変更出来ないのか。	上流側からの搬入ルート確保については、上流の所管部署と調整を図った上で検討します。搬入ルートの位置は、工事箇所からの距離や、搬入ルート上の環境等の影響度合い等を考慮して選定してまいります。
整備は環境資源を残して最低限の工事としてほしい。	河川整備にあたっては環境への影響を最少限とし、左岸側の環境改変を行わない等の整備内容としております。
豪雨対策よりも、津波の遡上が気になるが、検討しているのか。	津波が遡上してくることは可能性的ではありません。
現在、仙川との合流部で工事を行っているが、その工事内容を教えてほしい。	仙川に架かる鎌田橋付近が、仙川の流下能力上で整備が必要な箇所となっているため、鎌田橋の架け替えを併せて工事を行っています。交通量が多いため事業が難航していますが、現在は旧橋を撤去するための仮設道路が完成し、これから橋の架け替えに向けた工事を行っていく予定です。
今回の資料や議事録はインターネット上にアップされるのか。	東京都第二建設事務所のホームページに掲載予定です。
本日参加できなかった方々のために、近いうちに再度説明会を開催してほしい。	本日の説明資料や議事録等をホームページで公開しますので参照して頂ければと考えております。次回は検討事項の中間報告として、平成 30 年 3 月に説明会を開催予定です。
自然環境に関するアドバイザー等はいるのか。	検討を進めるにあたり、有識者への意見聴取は行っております。
次回は環境の専門家や樹木医の診断内容等を直接聞きたい。	平成 30 年 3 月の中間報告の際に実現可能か調整します。

以上